

電気学会

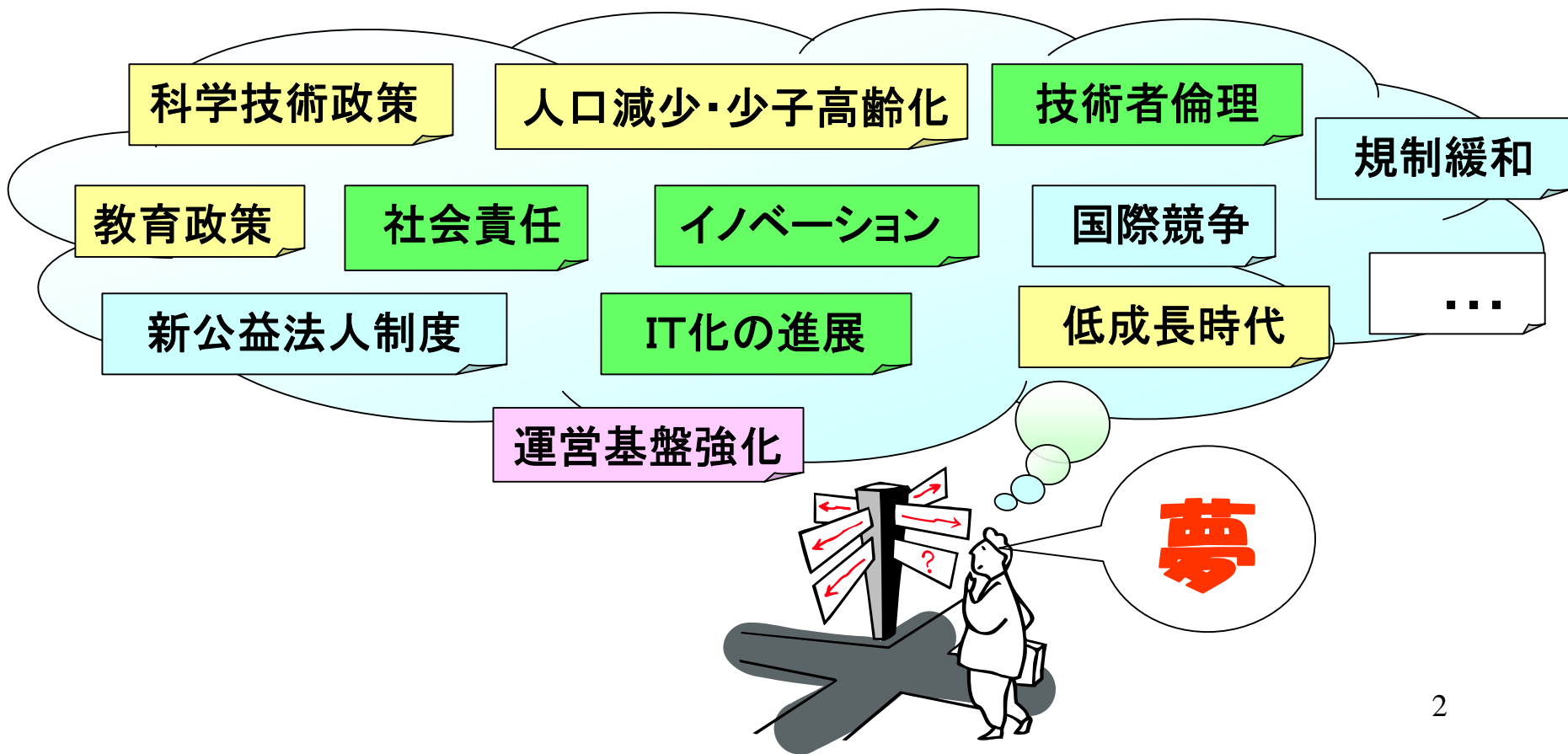
中長期ビジョン（案）

電気のことなら、
電気学会へ



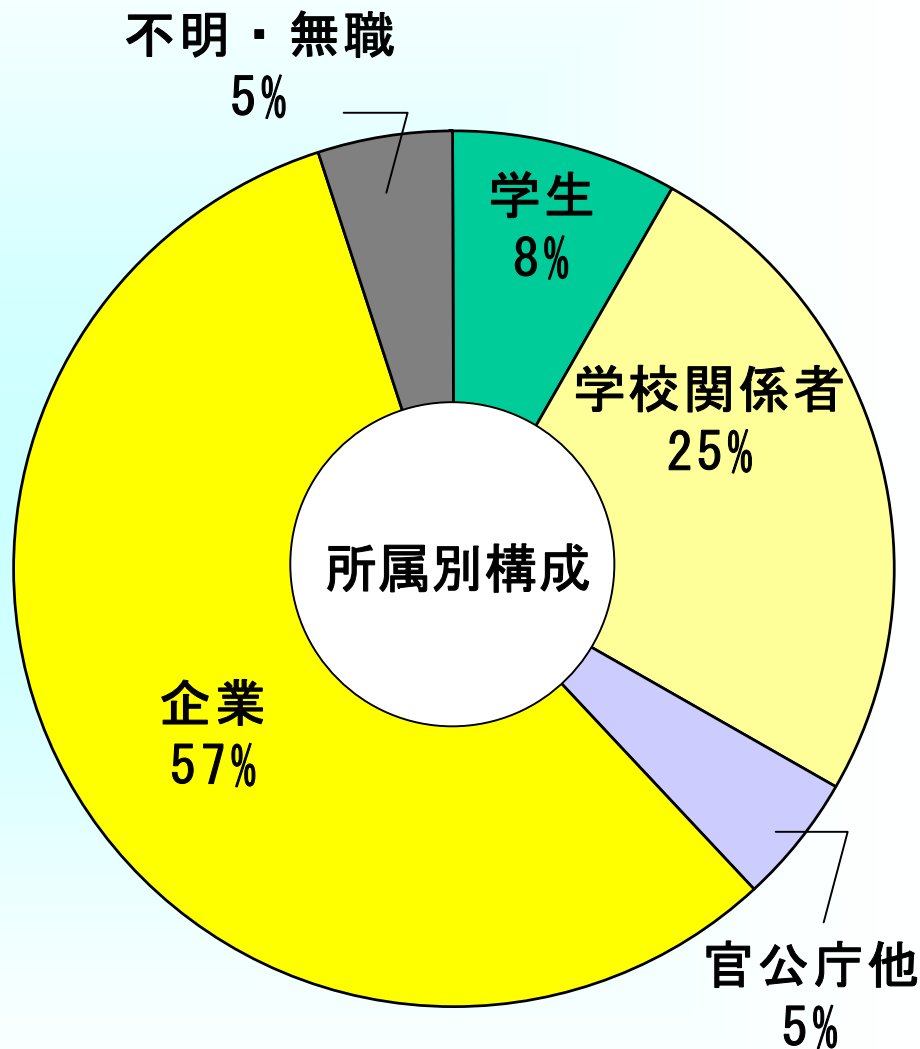
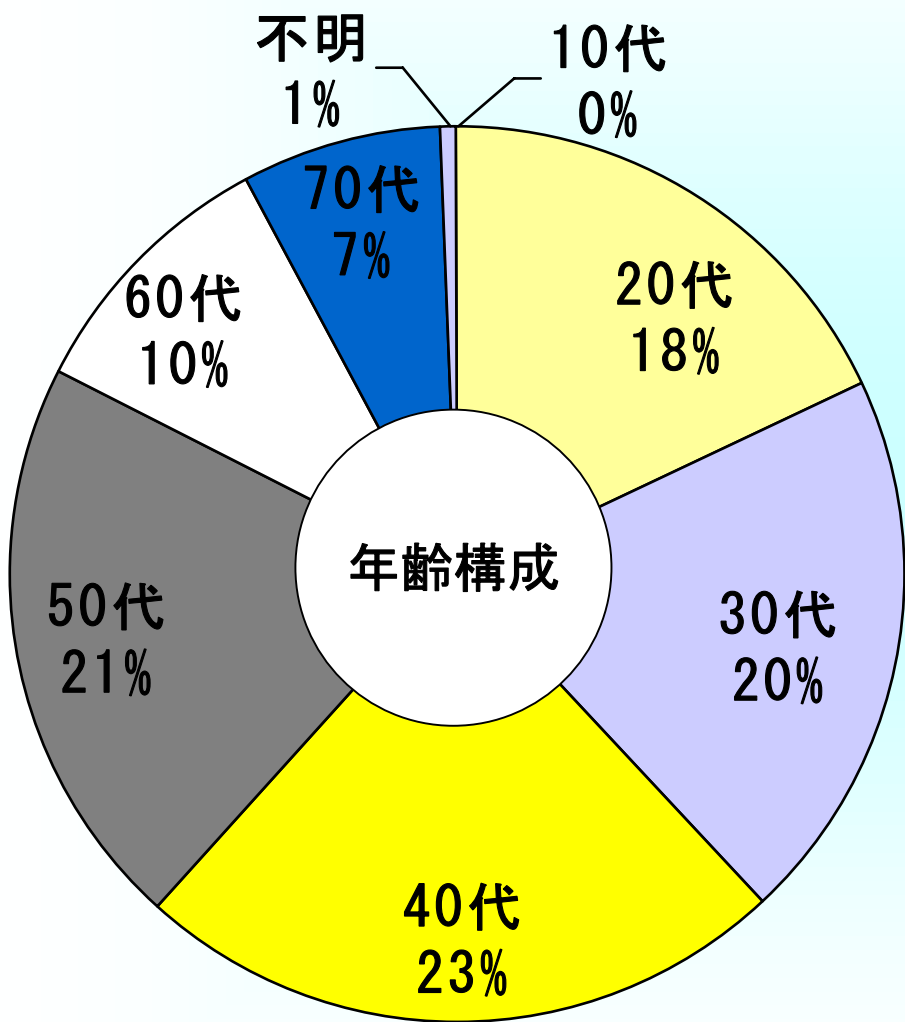
中長期ビジョン策定の背景

社会、経済、教育、研究、技術開発など学会を取り巻く環境が厳しい状況にある中、学会が持続的に発展していくためには、中長期的なビジョンの策定が必要です。



電気学会 会員構成

(平成18年7月現在)



「中長期ビジョン」は、電気学会が何を目指し、そのために何をしていくかを明らかにします。

<留意事項>

(1) わかりやすく、シンプルに

→ 内容・表現は簡潔に、目的、達成目標を明示

(2) 戦略的に

→ 力を注ぐべきポイント、方向を明確化

(3) 色々な人の意見を聞く

→ ステークホルダーからの提言等による協働策定

中長期ビジョンの基本構成

中長期ビジョン

グランドデザイン 目指すべき学会像

将来を展望し、電気学会のあるべき姿を示す。

マスタープラン 政策A 政策B

目指すべき学会を実現するための政策(=基本方策)を明示する。

アクションプラン

施策A-1 施策A-2
数値目標 数値目標

施策(=取り組み)と目標を明示する。
目的と数値目標を設定する。

事業執行計画

事業A-1-1 事業A-1-2

事業は、状況に柔軟に対応する必要がある。

グランドデザイン（長期ビジョン:5～10年程度）

マスタープラン（中期ビジョン:3～5年程度）

アクションプラン（短期目標:1～3年）

事業計画（年度執行計画）

中長期ビジョン策定へのアプローチ

社会情勢、技術動向等を踏まえて現状の問題を抽出・分析した上で、学会としての中長期（将来）ビジョンを策定

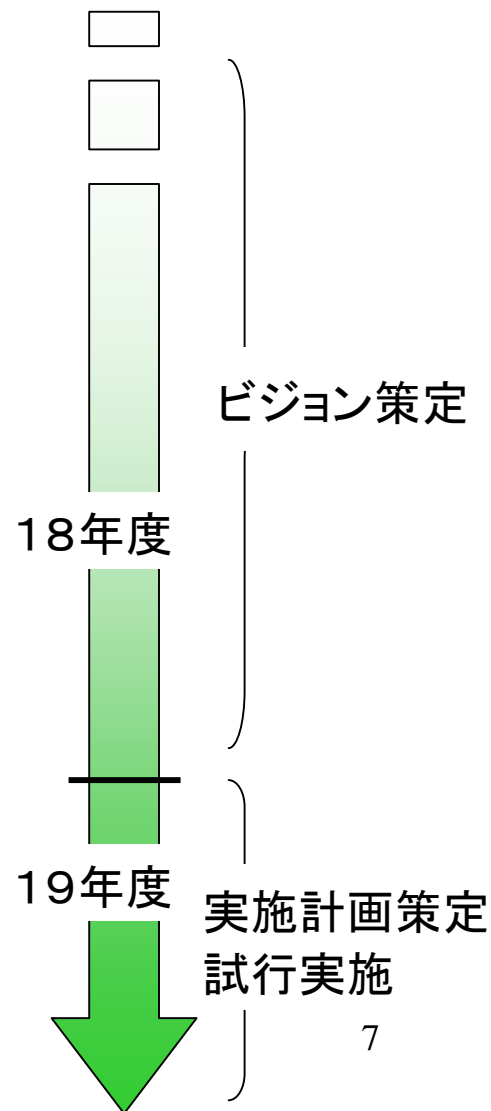


中長期的な展望と活性化戦略を策定
（例）学会が社会に果たすべき役割
科学技術政策への積極的関与
人材の育成、活躍の促進

他



具体的な展開策を検討・実施



中長期ビジョン策定への具体的アプローチ

Step 1

グランドデザイン(あるべき姿)を描く
グランドデザインに沿う要件の確認

グランドデザインの確認

Step 2

現状確認と分析, 情報収集

Step 3

現状とのギャップの確認(課題の明確化)

Step 4

課題の共有化, マスタープランの策定

Step 5

パブリックコメント等の実施

マスタープランの決定

企画委員会

9月

経営戦略会議

企画委員会

必要に応じ、
フィードバック

各WG

企画委員会

3月

経営戦略会議

グラウンドデザイン(案)

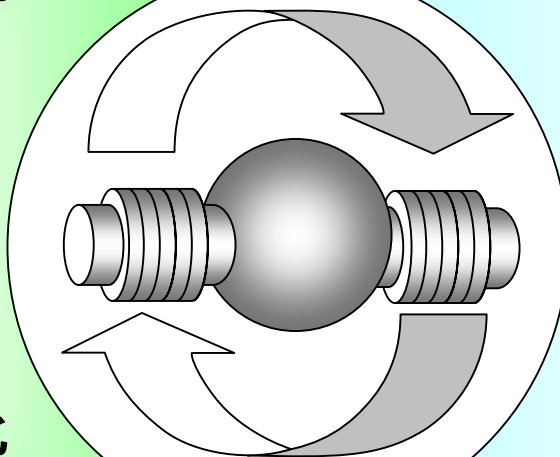
— 電気学会のあるべき姿 —



公正・中立な立場において、

未来へ

社会が求める電気学術
全般に関する研究の
進歩とその成果の
利用普及を図り、
電気学術の発展と文化
の向上に寄与します



会員へ

会員ニーズに応え、電気学術
全般に関する知の発見、
交換、体系化、蓄積
および適切な発信を実
現する快適な場を提供
します

会員の「**夢**」が原動力

あなたの「**夢**」をサポートします！

電気学会は、会員が自ら切磋琢磨し、相互に認め
協力し、技術力を高めることができる快適な場となり、
会員および社会からの声に応え、電気技術を通じた
「しあわせな未来」への一翼を担います。



（1）学会プレゼンスの向上

電気学術の権威として、電気技術の魅力を広く一般にご理解いただけるよう積極的に活動し、電気関係学協会のコアとなることを目指す。

（2）知的資産の創出と支援

産学官の有機的な連携のもと、新たな研究領域やビジネスモデル等の創出を支援し、高度な調査研究成果等をタイムリーに発信する。

（3）科学技術政策への積極的関与

科学技術の振興や技術立国への支援として、政府への提言や社会が求める情報を積極的に発信する。

（4）国際活動の積極的推進

国際会議の開催、運営および支援や英文誌の充実等、国際活動を強化し、国際的評価の向上を図る。

（5）国内外標準規格開発への参画

JEC規格の知見を活かし、国内外標準規格の開発へ積極的に参画する。

（6）科学技術を担う人材の創出・育成・活躍の促進

電気技術の継承と将来を担う次世代電気技術者の創出・育成に務め、活躍の場を提供することにより、電気技術者の資質と地位の向上を図る。

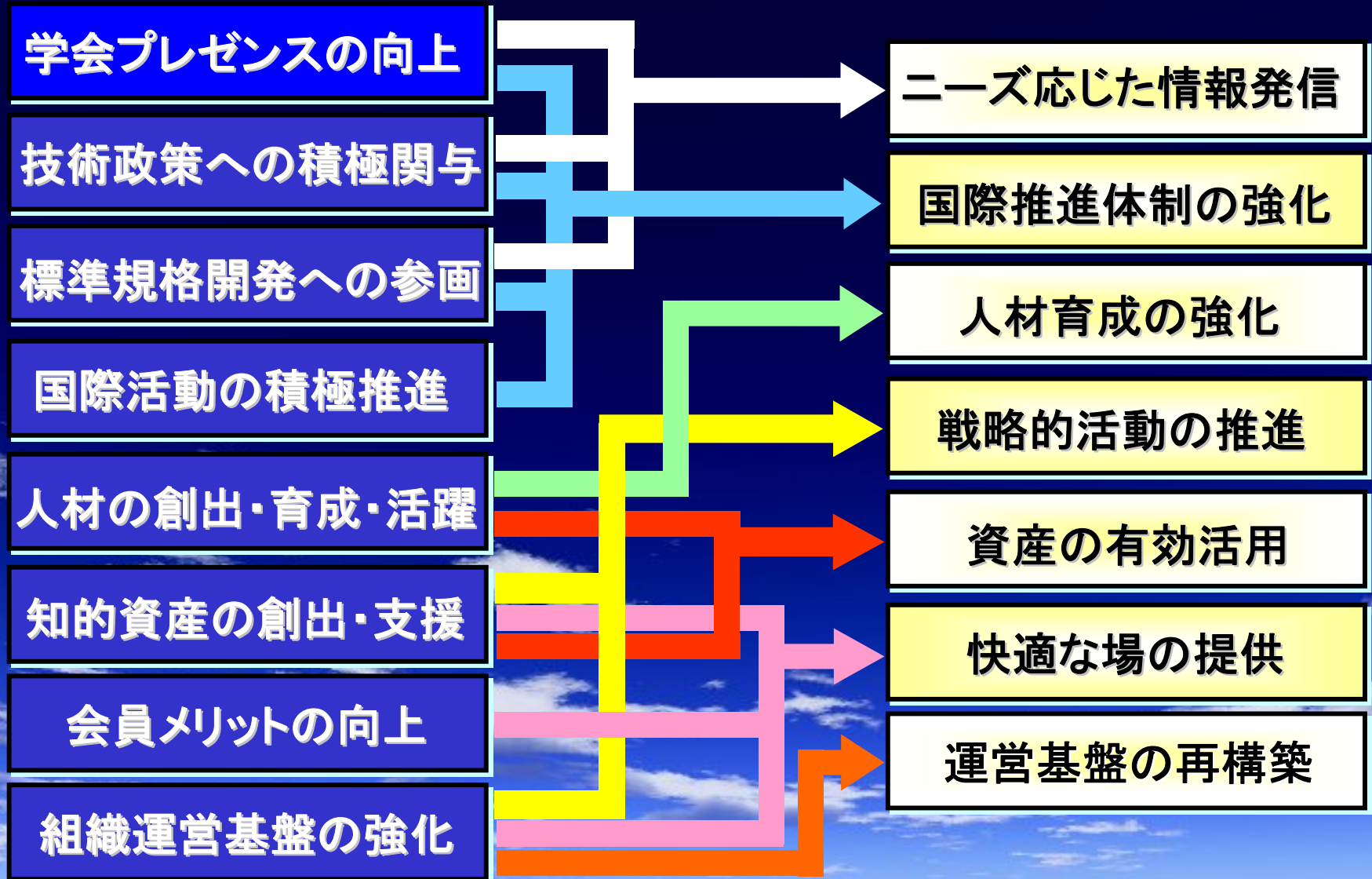
（7）会員メリットの向上

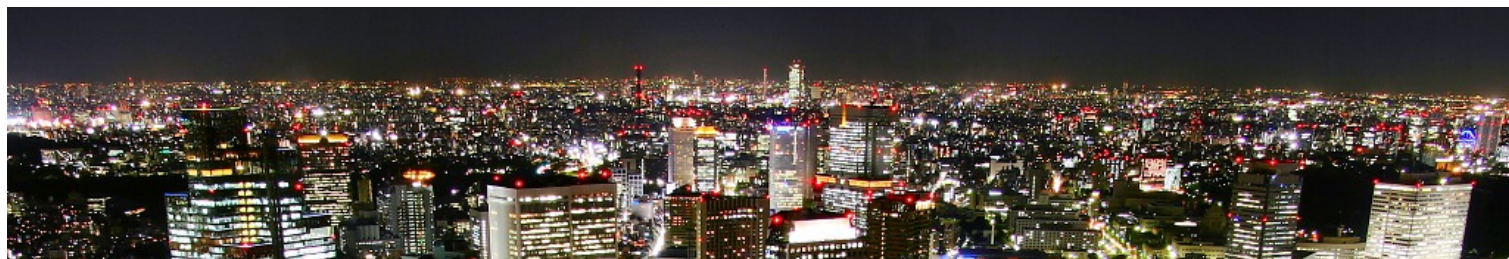
学会活動の更なる活性化に務め、会員の多様なニーズに迅速・的確に応えるようサービス内容を充実し、様々な「見える価値」を提供する。

（8）組織運営基盤の増強

運営基盤となる組織の効率化と経営資源を戦略的に集中・再配分するとともにインフラ機能の強化を図り、持続的な成長を図る。

グランドデザインからマスタープランへ





マスタープラン(案)



➤ 研究・調査活動

- ◇ 多数の専門家集団があり、時代即応のテーマ毎に調査専門委員会を設置
- ◇ 現在活動中の委員会は、約230にも及ぶ
- ◇ 全国大会、部門大会、支部大会をそれぞれ年1回開催

➤ 公開講座・見学会・電気実験教室等の開催

- ◇ 会員だけでなく、一般の人をも対象とした公開講座、見学会等を頻繁に開催

➤ 雑誌・部門誌・学術図書等の発行

- ◇ 学会誌と最新の学術論文を収録した部門誌(5部門)を毎月発行
- ◇ 教科書をはじめ、電気関係の専門書を会員の執筆にて出版
- ◇ 共通英文論文誌の隔月発行

➤ 国際交流

- ◇ 国際会議参加、外国他学会等と友好協定締結、学術交流、相互便益供与
- ◇ 電気技術に関する国際会議(ICEE)を毎年夏期に開催

➤ 各種の表彰・助成

- ◇ 優れた論文発表者・技術報告の表彰制度
- ◇ 学術振興助成、海外研究者を招聘する際の助成等を実施
- ◇ IEEJプロフェッショナル、電気学会フェロー制度

➤ 組織活動

- ◇ 経営戦略会議を開催（4回／年）
- ◇ 全国に9支部と15支所、5部門が置かれ、講演会、見学会等、各々活動を展開

➤ 快適な場の提供

- ◇ ホームページによる情報提供
- ◇ 電子投稿、査読システムの展開

➤ 標準規格の制定

- ◇ 電気規格調査会による電気機器・材料に関する団体規格を制定

(1) 戦略的活動の推進

1. イノベーションの促進や分野の壁を越えた部門間連携を強め、新規分野の構築や取込みを視野に入れた活動範囲の拡大を図る。
2. 戦略的活動を実現するため、学会本部が司令塔としての機能の充実および強化を図る。

<具体的な施策例>

理事会に直接提言できる組織の常設

中期的経営を担務する担当役員の設置

新規部門設置基準等の見直し

戦略的(競争的)研究分野への競争的資金援助

他

(2) 社会のニーズに対応した情報発信

1. 広聴活動等より社会ニーズを捉え、各種メディアを活用した一般広報の充実化を図り、電気技術の魅力を伝える。
2. 電気に関する基礎技術から先端技術までを分かり易く親しみ易い形で情報提供する。
3. 電気技術の普及発展を通じた安全・安心な社会の実現のため、電気技術に関する標準規格の開発を推進する。

<具体的な施策例>

新聞等メディアの活用促進, 一般向け単行本等の発刊

学会活動紹介パンフレット等の作成および配布

公開シンポジウム, 講演会・見学会等の開催 他

(3) 国際化に向けた体制の強化

1. 英文電子ジャーナル化の推進により、世界へ向けて情報発信する体制を構築する。
2. 国際会議の開催や国際的研究会活動が容易にできる仕組みを構築する。
3. 技術立国として国際標準規格の開発を推進するため、人的・金銭的支援を強化する。

<具体的な施策例>

英文誌の充実とSCI登録の早期実現, 部門誌の英文化率の向上
標準規格(IEC)への活動強化
国際編修委員会組織の構築, 外国雑誌との提携
国際会議支援事務局担当者の育成 他

(4) 将来を担う人材育成の強化

1. 会員・非会員，男女を問わず学会活動へ参加し易い環境を整備する。
2. 優秀な電気技術者層を厚く育むため、教育支援環境を整備する。
3. 若手会員との情報交換を活性化し、活躍の場を整備する。

<具体的な施策例>

部門大会等での若手会員の企画・運営

学生会員のネットワーク化

学生会員向け会誌の発刊，教育センター構想の実現

サイエンス実験・工作教室の展開

全国大会等での臨時託児所の設置 他

(5) 学術的・人的資産の有効活用

1. 電気学会会員の枠にとらわれず、広く他学協会と協調して、研究調査活動を実施する。
2. 電気学会フェロー、IEEJプロフェッショナルが多種多方面で活躍できるよう、積極的な支援を行う。
3. 各種学術資産(会誌、論文誌、全国大会・部門大会・研究会資料、技術報告書、教科書、専門書など)を蓄積し、高い利便性を確保する。

<具体的な施策例>

調査専門委員会等の学会会員比率の緩和

部門設置基準の見直し

各種セミナー開催, 人材活用事業 他

(6) 快適かつ効率的な手段や場の提供

1. ITを活用し、蓄積された学術資産や各種情報を自由に収集・提供できる機能を構築する。
2. わかり易く利便性の高い仕組みを整備するとともに、活動し易く親しみやすい場を提供し、会員相互の情報交換を活性化する。

<具体的な施策例>

会員専用Web会議室の活用促進

電子投稿・査読システムの展開

論文誌・研究会資料・技術報告等のアーカイブ化・検索システムの構築

個人情報等管理システムの構築

ホームページの充実 他

(7) 健全な組織運営基盤の再構築

1. 自主的な活動と様々な選択を許容する柔軟性を備えた新たな組織体制を導入する。
2. 学会運営に必要な集中すべき機能と分散すべき機能を見極め、財務基盤整備も含めた抜本的見直しを実施する。
3. 本部、支部、部門の密接な連携と明確な役割分担を行い、真の総合力が発揮できる仕組みを整備する。
4. 職員が能力を十分に発揮し得る組織・体制・環境の整備に取り組む。

<具体的な施策例>

機動的な活動が可能なよう学会諸規程類の見直し
事務局職員の最適配置, アウトソーシングの活用
専門スキルを有する人材の外部からの活用 他